

J リーグ候補生が体験した理想的 J リーグ論
～ブンデスリーガと比較して～
Ideal J-League J-League theory that candidates have experience
～In comparison with the Bundesliga～

1K10C431-9 望月 理人
主査 太田章 先生 副査 礒繁雄 先生

【目的】

私は、15 年間のサッカーキャリアで、J リーグクラブに所属していたこと、大学在学中に様々な J リーグクラブの練習に参加したこと、相手として試合をしたことなど J リーグを間近で感じられる経験が多くあった。その中で、クラブの経営難、環境不足、リーグのレベル低下、選手のモチベーション低下など実体験でしかわからない厳しい現状を知った。

一方で世界に目を向けてみるとドイツのブンデスリーガでは、プレミアリーグに次ぐ 2 番目にリーグ収入が高い。また、リーグ大半のクラブが黒字経営を行っていてクラブとしての土台が安定している。そういったブンデスリーガの長所と J リーグの欠点がマッチングするのではないかと考えた。

J リーグクラブの様々な欠点を知り不安を抱いた。そこで、これからの J リーグの未来をより良いものにしていくにはどうしていけば良いのかということを強く感じた。

【方法】

J リーグの発展、J リーグクラブの成長のために、ドイツのブンデスリーガを参考に分析する。ブンデスリーガは 1 部リーグ 18 クラブ中 14 クラブが黒字経営を行っている。更に試合の平均入場者数が 42626 人と世界と比べても圧倒的なものがある。ボルシアドルトムントのホームスタジアムであるシグナルイドナパークでは約 80000 人を収容でき、ボルシアドルトムントは毎試合満員近い人々を動員している。また、2012-2013 シーズン UEFA チャンピオンズリーグではバイエルンミュンヘンとボルシアドルトムントが決勝進出を果たし、史上初となるドイツ勢同士の決勝戦が実現した。そのようにブンデスリーガは経営、環境、クラブとしての実力と全ての面で優れているリーグである。

そういったブンデスリーガの成功と J リーグの現状を踏まえ、ブンデスリーガと J リーグのリーグ収入、クラブ収入、入場者数、環境、国においてのリーグの規模などを分析し比較する。またブンデスリーガにおいてリーグやクラブが成功した経緯や要因、どのような哲学や理念で改革を行ってきたかを分析する。これらの分析や比

較を元に私が現場で感じたことをはじめとした J リーグの多くの課題や厳しい現状の打開、J リーグにしかできない新たな強みを作り出すためにということを提言する。

【結果】

J リーグでは、効率の悪い選手構成、練習場やクラブハウスなどの環境問題、スタジアム問題など様々な課題があったが、それらは全てクラブの経営難からくるものだった。またクラブの経営難は組織だけでなく選手の心にも大きな影響を与えていた。なぜクラブの経営難が起きているかを分析した結果、J リーグの人気低迷という背景があった。その人気低迷の要因として、話題性の欠如、リーグのレベル低下などがある。

ブンデスリーガの成功の要因として、ドイツ国民の生活の中心には常にサッカーがあり、人々の心にサッカーが強く根付いていたことが大きく影響していた。そのことが圧倒的な入場者数や商業収入の高さに繋がっていた。クラブとしてもそれぞれ独自の哲学や理念があり、クラブとしてのビジョンや方向性がはっきりしていた。

【考察】

現在の J リーグクラブの大きな課題である経営難に対して、クラブとしてサッカーの強化よりもまず経営の強化に重きを置きクラブ運営を行う必要がある。

また、J リーグではライセンス制度やクラブのアカデミースクールなど、ブンデスリーガをはじめ海外のリーグから様々なことを学びいかしているが、J リーグ独自の特徴や強みがないのが事実である。J リーグの最終的な課題であるリーグの人気を回復するためには、1. 日系企業との連携 2. クラブにおいてサッカー組織以外の価値を作り出す 3. 選手への投資<クラブへの投資 4. 若手育成の意識を強める 5. スタジアムの複合施設化 6. 他国のクラブとの繋がりを強める 7. ファンやサポーターの集結を目的としたクラブの合併、といったことを J リーグ全体として行い、過去や他国との差別化となる強みを作り出す必要がある。